

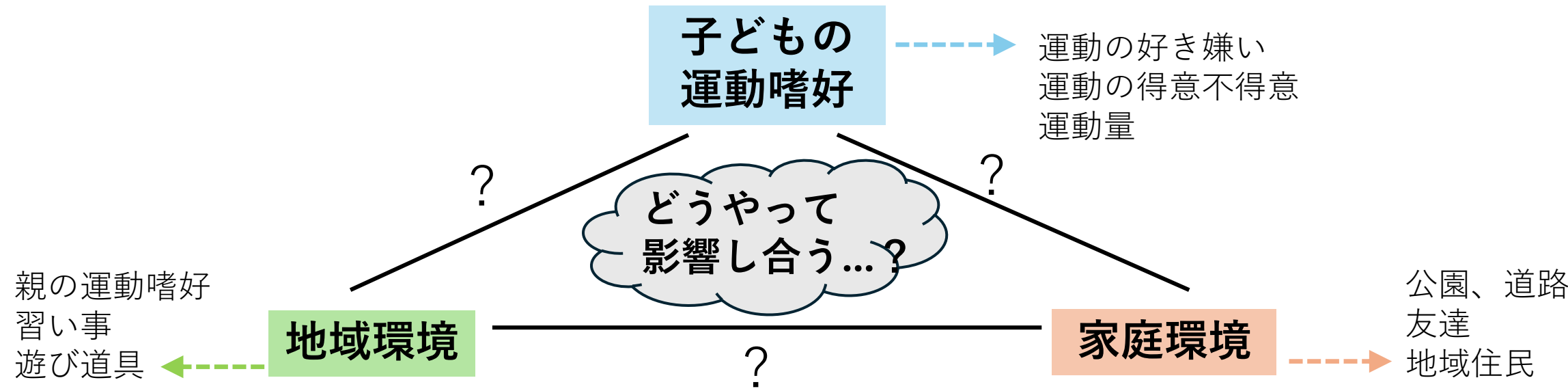
家庭・地域の周辺環境が子どもの運動嗜好に及ぼす影響

高橋 好波、中野貴博、稲田鎮、尾中智信、古田大也（中京大学）

1. 研究背景と目的

子どもの運動促進は、現代における社会問題の一つである。学歴社会の進展や情報化、公園や遊び場等の地域環境などにより、子どもの生活様式は大きく変化し、社会環境の変化に伴い、子どもの運動を取り巻く環境も時代とともに変化している。これらの環境要因は、子どもの運動への関心や運動行動に関係していると考えられる。そのため、子どもの運動嗜好に当たる要因を検討し、今後の運動促進のための効率的な環境構築についての示唆を得ることが求められる。

そこで本研究では、家庭や地域の運動意識や環境が、子どもの運動嗜好に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。家庭環境・地域環境から子どもの運動嗜好への影響経路と、各環境を構成する因子の影響力を検討した。



3. 方法（対象者・アンケート項目、分析手続き）

【調査対象者】

A県内の体力向上研修に参加した5市町村の小学校123校の小学校5年生児童1304人とその保護者

【調査方法】

- ・オンライン調査にてアンケートを実施し、保護者が回答
- ・県教育委員会と内容を検討し、同局保健体育科長の承諾を得た
- ・オンラインフォームを教育事務局経由で各学校に配布、回答

【分析手続き】

分析1：児童、家庭、地域の調査データにおける因子構造の確認

児童、家庭、地域の調査データの因子構造を因子分析により確認
(因子抽出：最尤法、プロマックス回転、因子抽出基準は固有値1以上
⇒全分散寄与率：家庭⇒50.33%、地域⇒41.52%)

- 児童：「子どもの運動嗜好」
- 家庭：「保護者の関心」「家庭内の運動実践」「父親のスポーツ関与」「母親のスポーツ関与」
- 地域：「運動環境」「人間環境」「制度的環境」

分析2：家庭環境や地域環境が、子どもの運動嗜好にもたらす影響の確認

- ①「家庭環境」および「地域環境」の確認的因子分析
→ 家庭環境と地域環境の各因子間の関係を確認
- ②子ども、家庭、地域全部含めた仮説モデルの確認（SEM）
→ 「地域環境」⇒「家庭環境」⇒「子ども運動嗜好」及び「地域環境」⇒「子どもの運動嗜好」へパスを引いた仮説構造モデルを共分散構造分析により検証
- ③多母集団同時分析
→ 男子と女子の別々の集団としてモデルを適用し、男女で構造の違いがあるか比較
- ③重回帰分析
→ 運動嗜好を従属変数、家庭環境と地域環境の各因子の因子得点を独立変数とした重回帰分析を行い、家庭環境と地域環境の各因子が子どもの運動嗜好に与える影響の強さを検討

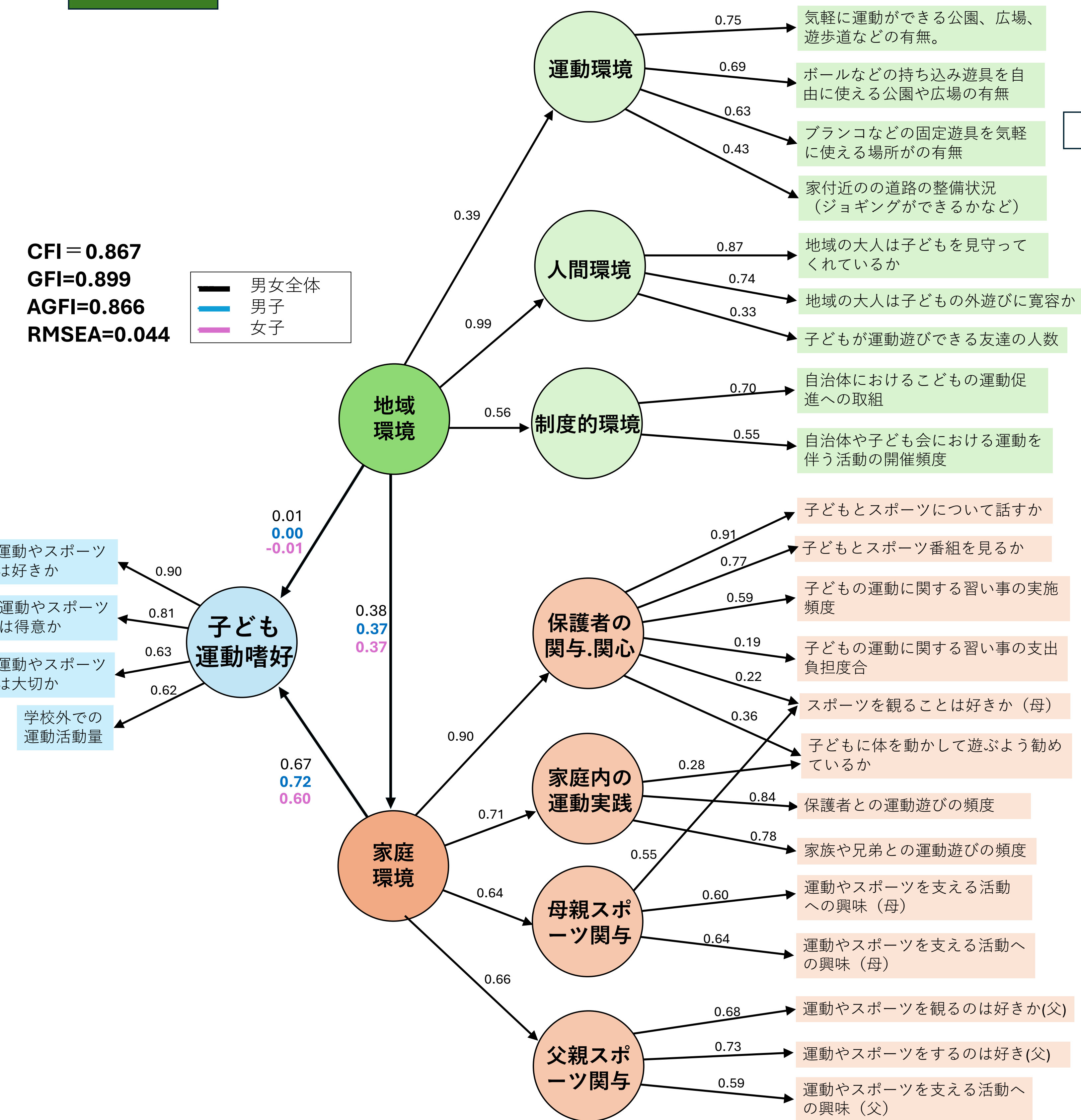
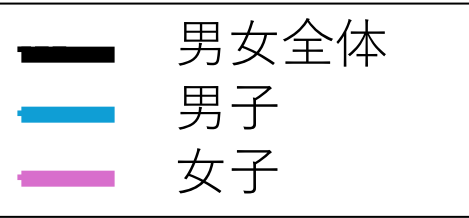
4. 結果

CFI=0.867

GFI=0.899

AGFI=0.866

RMSEA=0.044



2. 結果のまとめ

【家庭・地域が子どもの運動嗜好に及ぼす影響】

「子ども」、「地域」、「家庭」の各因子間におけるパス係数から、子どもの運動嗜好の向上には、**地域の環境よりも家庭の意識や環境の充実が重要**であることが示唆された。また、「地域」から「家庭」へのパスが有意であったことから、**保護者や子どもが地域の運動活動や施設などをうまく活用できる**ことが、子どもの運動を取り巻く視点から家庭環境の充実に繋がると示唆された。

さらに、男子と女子の多母集団同時分析の結果、男女で明確な差は見られなかった。しかしながら、「家庭」から「子ども」へのパス係数にわずかな差が見られ、家庭環境の影響は、**女子よりも男子のほうが影響を受けやすい**ことが示唆された。

【各因子における子ども運動嗜好への影響の違い】

重回帰分析の結果、家庭環境のモデルは、決定係数が0.309であり、**子どもの運動嗜好に一定程度の影響がある**ことが示唆された。中でも、「**保護者の関与・関心**」が最も回帰係数が大きく、強い影響が確認された。保護者が子どもの運動スポーツに関心が高いほど子どもも運動嗜好が高くなる傾向があると考えられる。

地域環境のモデルでは、決定係数が**0.054**と低く、**説明力は限定的であった**。しかし、「**人間環境**」に関しては、有意かつ正の回帰係数を示し、地域の大人の子どもの運動遊びに対する寛容さや運動遊びをする友達の有無などが子どもの運動嗜好に影響することが示唆された。

【分析対象項目】

○児童の項目

- ①運動嗜好（4項目）
 - ・運動やスポーツは好きか
 - ・運動やスポーツは得意か
 - ・運動やスポーツは大切な
 - ・学校外での運動活動量

○家庭環境の項目

- ①保護者の関与・関心（6項目）
 - ・子どもとスポーツについて話すか
 - ・子どもとスポーツ番組を見るか
 - ・体を動かして遊ぶよう勧めているか
 - ・子どもの運動に関する習い事の頻度
 - ・子どもとスポーツをやるのは好きか（母）
 - ・運動に関する習い事の支出負担度合
- ②家庭内の運動実践（2項目）
 - ・保護者と子どもの運動遊びの頻度
 - ・家族や兄弟との運動遊びの頻度
- ③父親スポーツ関与（3項目）
 - ・運動やスポーツをするのは好きか（父）
 - ・運動やスポーツを支える活動への興味（父）
 - ・運動やスポーツをするのは好きか（母）
 - ・運動やスポーツを支える活動への興味（母）

②家庭内の運動実践（2項目）

- ・保護者と子どもの運動遊びの頻度
- ・家族や兄弟との運動遊びの頻度

③父親スポーツ関与（3項目）

- ・運動やスポーツをするのは好きか（父）
- ・運動やスポーツを支える活動への興味（父）
- ・運動やスポーツをするのは好きか（母）
- ・運動やスポーツを支える活動への興味（母）

○地域環境の項目

①運動環境（4項目）

- ・運動できる公園、広場、遊歩道の有無
- ・遊具が使える公園があるか
- ・持ち込み遊具を気軽に使える場所の有無
- ・家の近くは道が整っているか

②人間環境（3項目）

- ・子どもの運動遊びできる友達の人数
- ・地域の大人は子どもの外遊びに寛容か
- ・地域の大人は子どもを見守ってくれているか

③制度的環境（2項目）

- ・自治体のこどもの運動促進への取組
- ・地域の運動を伴う活動の開催頻度

【因子間相関】

	子どもの運動嗜好	母親スポーツ関与	父親スポーツ関与	家庭内の運動実践	保護者の関与・関心	制度的環境	人間環境
母親スポーツ関与	.413*						
父親スポーツ関与	.362*	.529*					
家庭内の運動実践	.435*	.541*	.608*				
保護者の関与・関心	.548*	.655*	.673*	.717*			
制度的環境	.104*	.172*	.199*	.181*	.224*		
人間環境	.217*	.233*	.274*	.246*	.282*	.678*	
運動環境	0.042	.088*	.086*	.094*	.075*	.347*	.469*

【子ども、地域、家庭全部を含めた仮説モデルの確認】

1. モデル全体

「家庭」から「子ども」へのパス係数は**有意な値が確認された**。また、「地域」から「家庭」へのパス係数も**有意な値が確認された**。一方、「地域」から「子ども」のパスは、**有意な値が確認されなかった**。

2. 男女での比較

多母集団同時分析を行ったところ、いずれの因子でも男子と女子で大きな差は見られなかった。

【重回帰分析】

1. 子ども×家庭（従属変数：子ども運動嗜好）

R2 乗	独立変数	標準化係数 β	有意確率
0.309	母親のスポーツ関与	-0.091	0.003*
	父親のスポーツ関与	-0.048	0.139
	家庭内の運動実践	0.086	0.012*
	保護者の関与・関心	0.459	<.001**

「家庭環境」は「子どもの運動嗜好」に**影響力がある**ことが示唆された。

「家庭環境」を構成するの4因子のうち、「父親のスポーツ関与」以外の3因子で有意な値が確認された。影響の大きさは、「保護者の関与・関心」が最も高く、次いで「母親のスポーツ関与」、「家庭内の運動実践」の順であった。

1. 子ども×地域（従属変数：子ども運動嗜好）

R2 乗	独立変数	標準化係数 β	有意確率
0.054	制度的環境	-0.075	0.041*
	人間環境	0.302	<.001**
	運動環境	-0.073	0.017*

「地域環境」は「子どもの運動嗜好」への**説明力が限定的である**ことが示唆された。

「地域環境」を構成する3因子全てで有意な値が確認されたが、好影響が確認されたのは、人間環境のみであった。